

月・旬	7月		8月		9月
	下	上	中	下	上
イネの生育ステージ	出穂期 ●●		乳熟期 ●●		収穫期 ●●
作業内容	草刈り	草刈り	草刈り	草刈り	草刈り
	除草剤処理区	草刈り 散布 (草刈り 約5日後)		散布 (1回目散布 2週間後)	

図-7 水稲栽培における電気柵下の雑草管理作業体系 (例：コシヒカリの場合)

- 注1) 電気柵下の除草のための草刈りとは別に、斑点米カメムシ対策として出穂2週間前までの草刈り等を実施しておく
 2) 9月上旬の草刈りは収穫が早い場合には不要

布する。雑草の生育が旺盛になる場合は3回目の散布も検討する。

- 4) 処理幅は最低でも30cmとする。ただし、状況によっては処理幅を広げるか、畦畔全体の除草作業を追加する。
 5) 電気柵下草の管理が適切に行わ

れていてもイノシシに侵入されるリスクはある。電線を適切な高さ調整し、地形などの条件により他の柵や対策を組み合わせることが必要である。

引用文献

江口祐輔 2003. イノシシから田畑を守る お

もしろ生態とかしこい防ぎ方. 149pp. 農山漁村文化協会, 東京.

江口祐輔 2016. 被害の原因は「間違った知識」にあった！ 本当に正しい鳥獣害対策 Q&A. 259pp. 誠文堂新光社, 東京.

小寺祐二 2011. イノシシを獲る ワナのかけ方から肉の販売まで. 131pp. 農山漁村文化協会, 東京.

Saito, M. et al. (2011) Both environmental factors and countermeasures affect wild boars damage to rice paddies in Boso Peninsula, Japan. Crop Prot. 30, 1048-1054.

統計データから

過去最高を示した2019年の日本の年平均気温

各地点や月毎に異なる日本の年平均気温は、どのようにして求めているのだろうか。

日本や世界の平均気温の実際の値を求めることは極めて困難で、地球温暖化や気候変動の監視には実際の値は必須ではなく、観測点ごとの平均的な状態からの気温のずれ(1981～2010年の30年平均値を基準値とする偏差)を元に計算している。

日本の場合、1898年以降観測を継続している気象観測所の中から、都市化による影響が小さく、特定の地域に偏らないように選定された15地点(網走, 根室, 寿都, 山形, 石巻, 高岡市伏木, 飯田, 銚子, 境, 浜田, 彦根, 宮崎, 多度津, 名瀬, 石垣島)を選定し、それぞれの地点ごとの月平均気温の基準値から偏差を求め、年で平均し、それら15地点の値を平均して、その年日本の平均気温偏差として算出している。これにより、気候変動の長期変化傾向(トレンド)が解析されている。

2020年1月6日気象庁発表によると、2019年の日本の平均

気温の基準値からの偏差は+0.92℃で、1898年の統計開始以降、最も高い値を示している。そのトレンドをみると、日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.24℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が頻出している。

因みに、直近5年間および過去に+偏差が大きかった年を表-1に、2019年の各月ごとの平均気温偏差を表-2に示した。2019年は各月とも基準値からの気温偏差は+で、5月が+1.62℃、10月が+1.61℃と特に高い値を示した。

また、2019年の世界の年平均気温(基準値との差:+0.42℃)は、1891年の統計開始以降で、2番目に高い値となる見込みで、その要因として、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響と、2018年秋から2019年春まで続いたエルニーニョ現象等の自然変動の影響が考えられている。(K.O)

表-1 日本の年平均気温偏差(℃):近年における推移

1990年	1998年	2004年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
③ +0.78	⑤ +0.75	④ +0.77	+0.69	② +0.88	+0.26	+0.68	① +0.92

○字は偏差が大きかった年の順位

表-2 2019年における日本の月平均気温偏差(℃)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
+0.80	+1.49	+1.32	+0.05	+1.62	+0.42	+0.20	+0.73	+1.43	+1.62	+0.43	+0.99